

〔No. 23〕

次の a ～ e の文は、数値地形モデル（以下「DTM」という。）の活用について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の 1 ～ 5 の中から選べ。

- a. DTM を用いて段彩図を作成する際、同じ色で表現する標高値の範囲を狭く設定することにより、地形の微細な起伏を表すことができる。
- b. DTM と基盤地図情報の建築物の外周線データを用いて、地表面からの高さが 10 m 以上の建築物を抽出することができる。
- c. DTM から傾斜の急な地域を抽出し、土砂災害などの危険箇所の推定に活用することができる。
- d. 同じグラウンドデータから DTM を作成する場合、格子間隔を大きくする方が、地形をより詳細に表現することができる。
- e. 中心投影の数値写真から正射投影画像を作成する際、DTM を用いることにより土地の起伏に起因するひずみを取り除くことができる。

- 1. a, c
- 2. a, d
- 3. b, d
- 4. b, e
- 5. c, e